

# 特別支援教育研究委員会

## 1 研究テーマ

一人一人の生活を豊かにし、自立する力を育てる支援のあり方  
～生活単元学習における評価を生かした支援のあり方～

## 2 研究内容

特別支援教育研究委員会では、ここ数年「自立する力」に焦点をあてて研究を深めてきている。「自立」の姿を「それぞれの障害の状態や発達段階に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きようとする」と定義づけ、構想図を作成し、その方向に基づいた実践研究を行ってきた。

この研究の方向に沿って、昨年度から本研究委員会は特別支援学級の生活づくり・授業づくりに焦点をあて、原点に返って知的障害児の教育で大切にされてきた生活単元学習を中心に実践研究に取り組んできた。本年度は昨年度の成果と反省に基づき以下の2点に焦点を絞り実践研究を実施した。

◇より確かな学びにつながる評価と評価を生かした授業改善

◇どの子ども主体的に精一杯力を発揮し満足感が得られる「できる状況作り」の工夫

公開研究授業は、以下のように実施した。

◇実施期日 21年11月18日(水)

◇学校・学級名 須坂市立日野小学校 めだか学級

◇単元名 「お料理のプロを目指せ！」

## 3 研究の成果

◇評価を生かした授業改善にかかわって

### 【児童の育ちの姿(本時より)】

(Aさん) 相手を意識して活動していた姿

- ・おにぎりをプレゼントする相手である、B先生の写真を指さし、大勢の先生の中からB先生を捜し出して笑顔で見つめていた。
- ・いつも一番先に作っていた自分が食べる分のおにぎりを後回しにして、プレゼントする先生のおにぎりを先に作っていた。
- ・C先生の手を引いて座席まで案内していた。

### 【育ちを支えた支援にかかわる考察】

今回、Aさんの育ちの姿が見られたのは、教師の適切な評価に基づく支援が有効に働いたからだと考える。

本時の授業を設定するあたり、担任は前時までのAさんの育ちを次のように評価していた。

自分の作った物を他者が、喜んで食べてくれることを心地よく感じるようになってきた。Aさんが得意な視覚情報(写真)を活用すれば、作っている最中も、「これは〇〇さんにプレゼントするおにぎりだ」という意識を持ち続けることができるのではないだろうか。

これらの評価をするにあたり、担任は特別支援教育研究委員会で検討してきた以下のような評価の視点を活用した。

- ・児童の姿をプラスの視点で見えて児童が願っていることを読み取る
- ・教育課題の具現につながる姿かどうか検討する
- ・可能性の広がりを探る
- ・支援内容を検討する(個別の指導計画「指導の方向」を参考にする)